

令和5年第1回邑楽町議会定例会議事日程第3号

令和5年3月9日（木曜日） 午前10時開議
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（12名）

| | | | | | |
|-----|------|----|-----|-------|----|
| 2番 | 佐藤富代 | 議員 | 3番 | 小久保隆光 | 議員 |
| 4番 | 黒田重利 | 議員 | 5番 | 大賀孝訓 | 議員 |
| 6番 | 瀬山登 | 議員 | 7番 | 松島茂喜 | 議員 |
| 8番 | 塩井早苗 | 議員 | 9番 | 原義裕 | 議員 |
| 10番 | 松村潤 | 議員 | 12番 | 小沢泰治 | 議員 |
| 13番 | 大野貞夫 | 議員 | 14番 | 小島幸典 | 議員 |

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

| | |
|------|--------------------------|
| 金子正一 | 町長 |
| 半田康幸 | 副町長 |
| 藤江利久 | 教育長 |
| 松崎嘉雄 | 総務課長 |
| 齊藤順一 | 財政課長 |
| 橋本光規 | 企画課長 |
| 横山淳一 | 税務課長 |
| 山口哲也 | 住民保険課長 |
| 橋本恵子 | 福祉介護課長 |
| 久保田裕 | 健康づくり課長 |
| 中繁正浩 | 子ども支援課長 |
| 吉田享史 | 農業振興課長 兼農業委員会 事務局長 |
| 小島拓 | 商工振興課長 |
| 金井孝浩 | 建設環境課長 |
| 新島輝之 | 都市計画課長 |
| 築比地昭 | 会計管理者 兼会計課長 |
| 松崎澄子 | 学校教育課長 |
| 田中敏明 | 生涯学習課長 |

○職務のため議場に参加した者の職氏名

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石 | 原 | 光 | 浩 | 事 | 務 | 局 | 長 |
| 石 | 島 | 直 | 樹 | 書 | | | 記 |

◎開議の宣告

○松村 潤議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○松村 潤議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

順次発言を許します。

◇ 黒 田 重 利 議 員

○松村 潤議長 4番、黒田重利議員。

[4番 黒田重利議員登壇]

○4番 黒田重利議員 皆さん、改めましておはようございます。議席番号4番、黒田重利です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきたいと思っております。

まず最初に、私の一般質問、題名が専門職の人材確保についてということで、一般質問をさせていただきます。専門職、多々あると思うのですが、町のほうから一番多い専門職がいるというところになると、保育士が一番多いかなと思っております。

そこで、関連ということで、そのまま保育士の話が多くなるかなとは思っておりますが、まず最初に邑楽町職員定数条例の改正に伴い、職員の定数が増えるということになっております。現状についてお願いいたします。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

[松崎嘉雄総務課長登壇]

○松崎嘉雄総務課長 お答えします。

先日の3月7日、ご審議をいただきまして、職員定数条例改正を可決いただきました。大変ありがとうございました。定年引上げ期間中というのがありまして、令和5年から14年までということですが、原則として定年者が2年に1度しか生じないというようなこともございます。行政サービスの質の確保は、定年引上げ中も必要だということで、継続的に新規採用を継続する必要があります。今回の条例改正におきまして、定数におきましては定数211人のところを224人に改めまして、13名増やしております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 13名増えるという説明を私も聞いております。ここで話をしておかないと、後で書くことも何もできませんので、一応聞いておくということになっております。

私はその13名増えると言っている中に、専門職の人材を増やしていただきたいというのが私の中にありまして、今回このような話をしているわけですが、会計年度任用職員と正規職員の数の違いというのがあるのです。できるだけ専門職ということですので、正規職員というほうになるのかなと思うのですが、条例のほうからいくと増えるから。増やしてもらいたいのは、正規職員の方かなと思うのですが、その辺の現在の正規職員と、会計年度任用職員の数の違いをお願いいたします。数をお願いします。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

〔松崎嘉雄総務課長登壇〕

○松崎嘉雄総務課長 答えいたします。

正規職員数でございますけれども、令和3年から申し上げます。令和3年、195名、令和4年、4月1日現在です、いずれも、197名となっております。また、会計年度任用職員、令和3年、4月1日でございますけれども、241人、令和4年、257人ということになっております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今の数字を見ても、会計年度任用職員の方がすごく多くいるという中で、その中で専門職である保育士、前々から同僚議員のほうから、一般質問でいろんな話がされていると思うのですが、保育士の人材不足が、これはもう皆さん分かっていると思うのですが、大変なことになっていると思います。処遇改善の話もいろいろあったかなと思うのですが、これから先は子ども支援課が中心になってしまうかなと思うのですが、今年度子ども支援課で会計年度任用職員報酬が補正予算でマイナス計上になっている。保育士の派遣業務委託料が1,048万1,000円のマイナス。中央保育園では691万9,000円、南保育園では544万4,000円、こども園では792万9,000円、合計で2,029万2,000円のマイナス計上になっているのですが、これはもう人が足りなくて、この数字が出てきているのか、その辺を課長お願いいたします。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えをいたします。

補正予算において会計年度任用職員の報酬を減額しておりますのは、各園において必要と見込んだ会計年度任用職員に支払う報酬でございますが、見込んだ時間、人数と実際に雇用した時間、人数に差が生じておりますので、その差分を減額しているものでございます。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、その差額ということですが、はっきり言うと人材が足りていないということよろしいでしょうか。課長がちょっと苦い顔をしていますので、足りないのかなと思ってお

ります。課長、一言ありますか。ないですね。分かりました。人材が足りないということで認識いたします。

次に、会計年度任用職員の方の募集はしっかりできているのかという質問なのですが、今人員が足りていないと言っているのです、どこで募集をかけているのかということで、課長よろしくお願ひします。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えをいたします。

保育士等、会計年度任用職員の募集に関しましては、町の広報誌ですとか、ホームページ、あとはハローワークに依頼をしたりしております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、課長のほうからですと、町のホームページ、広報誌、ハローワークという3つ話が出てきました。あと、仲間の例えば今までやってきた職員の方から、ここがいいですよなんて言われて来たという人がいなかったのでしょうか。そういう話が聞けるともっとよかったのですが。その募集に関して、どこが一番採用が多かったというか、応募が多かった、そういうことが分かればそこへより多く力を入れて募集できるのではないかなと思うのですが、その辺のアンケートというか、調査というのはしているのでしょうか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えいたします。

特に調査というものはしておりませんが、最近面接をした会計年度任用職員について聞いたところ、ハローワークという方がいらっしゃいました。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、ハローワークという答えが出てきたのですが、そうするとホームページと広報誌で出しているのですが、それよりもハローワークのほうがよかったという感じに私はちょっと聞こえてしまったのですが、例えばもっと力を入れてその募集のかけ方、掲載する掲載の仕方とか、あとは簡単ですけれども、太字にするとか、ここに力を入れてやっていただきたいというような要望はしていないのでしょうか。例えばホームページの一番頭に募集とか入れてやるとか、この場所だけ今回は余分に場所を取らせていただきましたというような、募集のかけ方はしているのでしょうか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 お答えいたします。

以前は、広報誌の、どちらかというとはかの記事と同じような位置にあったものを、今回は前のほうにちょっと目立つようにしていただいたというのがあります。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 いろいろ手を尽くしているという答弁でした。それは、少しでもプラスになればいいかなと思います。その募集に対して実際の応募の数というのが、例えば50人欲しいといったところに50人の応募があれば、それに越したことはないのですが、どんな感じで応募がされてきたのか、実際の数が足りているかどうかということになってくると思うのですが。課長お願いします。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 お答えをいたします。

実際の応募状況ということですが、人数は何人ということを出してはいないのですが、若干名ということで募集をしているわけですが、年度当初で雇う予定だった人が不足に年度途中で応募があったかということにつきましては、年度途中ではなかったということになります。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 応募がなかったというのは、これはとても問題だと思うのですが、いろいろ心というか、思い当たる節があるのではないかなと思うのです。実際に職員が配置される現場、保育士など専門職員が不足して苦勞している、会計年度任用職員を募集しても応募がないといった場合に何か得策というか、考えはありますか。応募がない場合について、何かの対策がありますか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 お答えをいたします。

保育士などの会計年度任用職員の募集に対して、応募がなかった場合につきましては、保育士の派遣が受けられるようお願いをしております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、派遣のほうに対応していただいているということなのですが、今一番最初のほうでも私言ったのですが、派遣業務委託料も1,048万1,000円のマイナス計上なのですが、マイナス計上でいっても、やっぱりそこへ頼むしかないという、その辺の関係性は何か、関係性とい

うかそこへ頼むしか手がないのでしょうか。派遣に頼むということしかないのですか。ない。そう
ですか。関係性は派遣に頼むという話ですが、マイナス計上だったので、そうかなと思ったので
すが、派遣もこれは人材が逼迫しているのかなと思います。何でそんなふうになってしまうのか、保
育士の応募が少ないということは何か理由があると思うのですが、その理由は課長、何だと思いま
すか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えいたします。

保育士の応募がなかったり少ないという理由につきましては、応募されなかった方に直接確認す
ることはできないのですが、働く意欲のある方につきましては、年度当初の段階で既に就職
先を見つけて働いていらっしゃるのではないかと思います。そのため、年度途中では募集してもな
かなか見つからないのかなというふうに思っております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 年度当初にもう半分以上というか、ほぼ大体決まってしまうという方
向の話は今聞かされてしまったのですが、では、それだけで話が済んでしまうというのはまた何か
おかしな話ではないかなと思うのですが、ほかに何か年度当初以外にあるのではないかなと。
年度途中でも保育士の確保が必要になるといったときに、他所に取られないように、また他所に行
かないようにするための対策として何か考えていること、例えば働きやすい職場とか、ほかより報
酬がいいとか、そういう話が出てくれば、私は邑楽町の保育園に勤めたいという人が出てくるかも
しれないのだけれども、その辺は何かありますか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えをいたします。

必ずしも年度当初で就職してしまうわけではないのではないかとということでございますけれど
も、年度途中で町が募集をして、それに応募しないということに対しましては、町の示す条件と就
職を考えている方の求める条件が一致していないのかなということは考えられると思います。年度
途中で報酬を上げるとかということについてはちょっと難しいと思います。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、町の契約、そういうところがあって、それに従ってやっているというお
答えだったですね。もし人が足らなかつたら、必ずしも人が魅力のある、その働く人が魅力ある場
所であれば、人が集まらないということはないかなと思うのですが、職場として勤務先を探す場合

に、勤務時間や勤務体制、報酬額など、就職条件はもちろん、職場では人間関係もすごく大事なかと私は思います。保育園などの職場における職員同士の人間関係というのは良好なのか、ちょっとお願いいたします。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えをいたします。

今年度、各園で働いている会計年度任用職員の方々と直接会ってお話をさせていただきました。その中で、職場の雰囲気に関してよくないというお話は特にございませでした。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、職場の雰囲気はいいという話を聞いて私は一安心しております。前回いろいろな話を耳にしまして、ちょっと園内でもめごとがあったような話を耳にしたものですから、そういうことが、例えば保育士同士の間で広まってしまって、余計会計年度任用職員の方が来づらい状況があったら困るかなと思って、今そこで質問させていただいたのです。

あと、そのときにちょっと問題というか話が出たのが、また職員と保護者の方との関係性、距離感というか、そういうことがありまして、関係性ですか、保護者と職員との関係性もこれも良好であればいいかなと思うのですが、課長は調べてると思いますので、一言お願いします。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えいたします。

職員と保護者との人間関係が悪くなって困っているというお話については、特に聞いておりません。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 それで、私も先ほど言いましたけれども、そういう話を耳に挟んでおりましたが、課長の答弁ではそういうことはないということです、改善されて今とてもいい職場かなというのを期待しております。

次に、会計年度任用職員の方の雇用の継続、希望というのは、大体どのくらい出ているのか。また私は正規職員になりたいと言っただけでいる方の希望というのはどのくらいあるのか、課長お願いいたします。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

〔松崎嘉雄総務課長登壇〕

○松崎嘉雄総務課長 答えをいたします。

会計年度任用職員の方、ほとんどの方が雇用の継続を希望されております。なお、子ども支援課所管の方、継続希望された方は新年度も全て、100名を超える人数ですけれども、雇用される予定となっております。

また、一般事務については、数は限定的ですけれども、やはり希望された方全員が継続で雇用をいただくということで予定をされております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 今、ほぼ全員の方が継続の希望ということで、これはいい話かなと思ったのですが、何でこんなことを聞いたかという、私の耳に挟んでいることが、少し前の話なのですが、会計年度任用職員の中の保育士の話をしているのですが、一遍に何人も同じ園で辞めてしまうという例が何回かあったのです。それなので、こういった希望、何でそこで辞めてしまうのかというのは、先ほどから言っている人間関係ではないのかなとか、というのもあったので、いろいろ話を聞いてみたのですが、今課長の話だとほぼ希望していただけているということは、その辺も改善されているのかなと、私は一応理解しておきますので。

次に、会計年度任用職員の正規職員に希望する声、例えば私は来年から正規職員になりたいのだよというようなことがあったときに、今までそういう正規職員になった人というのは、なりたいとってなった人というのはどのくらいいますか。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

〔松崎嘉雄総務課長登壇〕

○松崎嘉雄総務課長 お答えをいたします。

会計年度任用職員が正規の職員を希望するということは可能です。ただ、募集要項に年齢制限等は設けさせていただいております。また、臨時職員として働いていた方、職員採用試験に受験された方、そういう実績ももちろんございます。その年の実施状況によって異なりますけれども、正規の職員採用者のうち、おおむね1名から2名、ゼロ名ということももちろんございます。希望しない場合もございますけれども、会計年度任用職員であった方、以前に働いていた経験というものがあつた方というのがいらっしゃいます。

以上になります。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 人数は少ないですけれどもいるということ、年齢制限等々あるので、それは守っていただかないということもあるので、しょうがないかなとも思うのですが、いるということで安心しました。

また、次の質問なのですが、各園の正規職員の年齢差というのですか、年の差があり、新しく入った会計年度任用職員の方とかとの間で何か相談しづらいこととかあると思うのですが、何かそう

いう話を聞いていませんか。ちょっと相談しづらくて、年配の人には相談しづらいので、私のすぐ年上の人がいてくれたらありがたいのですがなんていう相談は、課長のほうは受けておりませんか。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 答えをいたします。

各園で職員の年齢差があるのは事実です。ただ、その年齢差のために相談しづらいという相談は、私のところには来ていません。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 これは、これから先とても大事なことになるのかなと思いますので、私も経験上あるのです。私が一番最初に仕事をして、その上の方がうんと年が離れていて、どうするのだいという話をなかなかしづらいということがあります。自分たちでできるようになるまでの間、やはりそういうのが結構大事なことになるのかなと、よき相談相手というのですか。できれば、年が近ければそういうのがもっといいかなと思ったので、その年齢差が少なくてよりいい仕事環境ができればいいかなと思ったので、ちょっと聞いたのですが、とても重要なことですので、気配りをしていただいて、課長のほうから。今、相談はなかったというのですけれども、無理やり相談しに行くとかいうようなことをしていただければいいかなと思います。よろしくお願いします。

次の質問に移りたいと思います。仕事上、同じ資格ですね、保育士というのは。業務も同じ。ただ、いざ何かあったときの責任の違い、例えば正規職員の方と会計年度任用職員の方の責任の違いとか、責任感の違いですか、自分が感じることで、そういうのがあると思うのですけれども、その辺のことというのは課長はどんなふうに感じていますか。ちょっと前の話をさせていただきますけれども、これ直接私が保育士から聞いた話なのですが、普通業務をやっている分には、皆さん同じテリトリーでやっているのですが、記念行事、運動会だとか発表会みたいなことをやるときに、正規職員の方が主力に入ってくないということを聞いたことがあるのです。主力というのは主立って指図をしていただけるととても助かりますよね。では、こういうふうにやっていきましょう、段取りをつけていただくというのはすごく大事なかなと思うのです。言い方が悪いのですが、そういうところも会計年度任用職員の方に押しつけると言ったら変なのですが、そういった話を聞いているのです。では、正規職員の方は何していたのって聞くと、監督というのですか、園の掃除というのですか、何かそんなようなことをちょっとしていたという話も聞いたりするのです、その場所にいないで。そういうのはやっぱりちょっと責任として、会計年度任用職員の方が負う、何かあったとき、負うことと、その人が感じる責任感というのが何か出てくるのではないのかなと思うのですけれども、その辺のことはどうなのでしょう。

○松村 潤議長 中繁子ども支援課長。

〔中繁正浩子ども支援課長登壇〕

○中繁正浩子ども支援課長 お答えいたします。

保育士などで担任を持っている場合には、正規職員と会計年度任用職員であろうと、子どもと向き合う姿勢に違いはないと思うのですが、そんな中でも正規職員については率先して業務に当たるべきだと私は思っております。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 これは、先ほども言ったように、少し前の話をさせていただいたのです。今までの話というのはどうしても園のことなので、処遇というのですか、待遇というのか、そのところがちょっと問題で人が集まらないかなみたいなことも聞いているので、ちょっと課長は答えづらいのではないかなと思いつつながら私は聞いているのですが、子どもと向き合う姿勢に違いはないというのが、そこをしっかりと課長の意見が各園に通っているのであれば、これは問題なく業務が進んでいるのかなと思っておりますけれども、やっぱりその辺だけでもやっぱり気を引き締めていただいて、よく観察していただくと、もっといいかなと思います。業務が忙しいと思うのですが、今まで1か月に2回ぐらい顔出していたのを、1週間に1回、どうだいと言っていただけでも、ちょっと変わってくるかなと思いますので、そういうのをしっかりとやっていただけたら、いろいろな人が心強いかなと。課長が来ると邪魔だよという人はいないと思いますので、よろしく願います。

次に移りたいと思います。会計年度任用職員の中でもしっかりと経験を積んだ優秀な人材の方がいると思うのです。そういった方を確保しておくために、何か特別な優遇処置等は考えているのかどうか、総務課長お願いいたします。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

〔松崎嘉雄総務課長登壇〕

○松崎嘉雄総務課長 お答えします。

会計年度任用職員でございますけれども、正規職員を希望する場合について、会計年度任用職員を特別に対象とした採用試験というのはございません。また、職員採用については、全て対象者について平等な条件で実施するということになっております。特に優遇策というのはございません。今後も職員の募集等については、計画的に実施してまいりたいというふうには考えております。

以上です。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 町としてはそれが一番かと思えます。平等に、計画的に、足りない人をどうするのか話を聞いているのですが、実績に基づいて優先的に声をかけられる、例えば町独自の保育所のネットワークとかをつくって、人材不足のときは対応していただけたらとか、そういう、だって足りないのだから、対応していただくという話のほかに、情報提供して、共有してやってもいいの

ではないかなと思うのですけれども。そういう、保育士同士の輪をつくってあげるみたいな、そういう考えは総務課長は持っていますか。

○松村 潤議長 松崎総務課長。

〔松崎嘉雄総務課長登壇〕

○松崎嘉雄総務課長 答えをいたします。

新聞紙上で拝見いたしましたけれども、たしか県内のある市であったかと思っておりますけれども、民間の保育所のほうで人員が足りないので、ネットワークを構築してというような話はお聞きしております。また、邑楽町につきましては、広報誌5月号で、今年度ですけれども、募集をかけさせていただいております。新規採用ということで若干名ということでした。その際の応募状況については、多くの方に応募いただいております。その中で、合格者についてこちらのほうで通知をしておりますので、その募集に対しての不足というのは、新規採用については、今のところ状況は不足する状況というのは募集、新規の場合においてはございません。

以上になります。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 最初に募集をかけたときは、予定以上にいて、その中から選んでいただいたということだったということですね。了解いたしました。足りないときの話は、今途中で足りないという話は出なかったですけれども、人材不足のときの対応としての話だったのですが、その時々で対応していただくということなのでしょうか。先ほど、子ども支援課の課長もそういうときに派遣を頼んでいるといったことですので、そこにつながっていくのかなというふうに思います。

それで、優秀な人材を確保できれば、その人を見習って次の人材育成にもつながるかなと思うのですが、その辺はどう考えているのでしょうか。町長、優秀な人材を確保していただいて、その人を見習えば、自然と次の人材の育成につながっていくのではないかなと思うのですが、その辺町長はどんな意見お持ちでしょうか。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 専門職として働いている方々については、その専門、専門によって、もちろん実力といいますが、その資格というのは十分持ち合わせているわけでもありますので、そういった方々の中から経験の豊富な方、より、保育所ということの限定の話であれば、そういった方々を、経験の多い方を園長なり、主任保育士なりということで、職員のチームワークをつくっているというふうに思いますので、そういう方々がまさに保育士が苦勞しているという部分について、あれば十分なケアができるというふうに私は思っております。

先ほど来からいろいろお話を聞いていく中で、ちょっとご質問とは離れますけれども、いろいろな課題があるよというふうに私は受け止めたので、そういったリーダー養成はもちろんですけ

れども、リーダーになる方々に、よりその保育士の若い方々への指導をとということをしていただければ、それぞれの職員がスキルアップにもつながりますし、やりがいのある仕事につながっていくのではないかとこのように思っておりますので、雇用ということについては、総務課長のほうから申し上げましたけれども、十分その辺もキャリアのある方について、雇用について今後考えていく必要はあるというようなことは、今協議している最中でもありますから、十分ご意見を伺う中で、そしてよりよい人材が雇用できるように努めていきたいと、こんなふうに思います。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 ありがとうございます。町長自ら専門職、こういった優秀な人材をしっかりと確保していきたいというような意気込みを聞いて私もよかったかなと思います。

ここちょっと副町長に聞くのですが、中央公民館の専門職として、音響、映像などの専門職員を当初、できる前は自分たちでやっていて、自分たちで運営していきたいというような志があったのを認識しているのですが、その後どんな方向なのでしょう。

○松村 潤議長 半田副町長。

〔半田康幸副町長登壇〕

○半田康幸副町長 これ以前にも、この議会の中でご質問いただいたことが、ほかの議員からあったかと思いますが、当初基本構想の段階では、実際に舞台機構であるとか、音響設備であるとか、そういったものについて、町民の方のボランティア等を活用した中で、地元の人に支えられた運営を目指そうという方向を打ち出しました。ただ、これが実際の設計を進める中で、それが可能なのかどうかという部分について詳細に検討を加えた中で、やはり舞台機構は生命に関わる、非常にある意味ではトン単位の重さのものを釣り上げたりできるような機構となっておりますので、それを職員なりボランティアが、素人が動かした場合に、もしやっぱり大きな事故等があった場合に、大変な問題になるというようなことがありまして、やはりそこは専門的な知識を持った人に、きちんと運営をしてもらわないと、やはりその中央公民館の機能というのを十分に発揮できないという結論になりまして、現在は職員で、音響関係については会計年度任用職員を採用し、また舞台機構につきましては、外部の業者に委託をしているという状況でございます。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 分かりました。そういう方向でやっているということで、やはり専門職の大事さというのがここへ出ているかなと思います。

最後の質問なのですが、専門職の人材確保をどう思うかということなのですが、例としてちょっと瀬山議員には話していないのですが、瀬山議員は車の整備士の資格を持っていて、在職中はバスなり公用車なりあるのを直してくれていたと。これこそ専門職でよくやっていただいたことかなと思います。そういった専門職の方の人材確保ということについてということですが、昨日、傍聴にいらした町民の方から、この方は有事の際に備えて専門職員がいれば、被害を少しでも小さくで

きるのではないかという話をしていっぱいしました。また、そういう部署なり、そういうことが確保できる力を邑楽町は持っているのだよと言っていました。だから、そういうのを、専門職員の確保をしっかりとやっていただきたいという話を私は昨日傍聴席の方から聞かされました。誠に力強い言い方だったので、私も町長にその旨伝えますということで今伝えているわけですが、今回は保育士にちょっと特化してしまったのですが、いろんな専門職があります。課長たちに聞くと、いろんな職を持っている人がいますよと。町長は、前々から適材適所に人を配置すると、人員を配置しているということもありますので、今度条例で人数が増える、増やせる人数の中に優秀な人材、専門職員の確保、人材確保をしっかりとやっていただきたいと思うのですが、町長お願いいたします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員がご指摘のように、まさにそういったこの要件を持っている方に、行政の守備範囲大変間口が広いわけでもありまして、具体的な話が先ほど保育園のお話が出ましたが、保育士をはじめ、幼稚園の教諭ですとか、保健師、栄養士、それから土木関係ですとか、建築関係ということになりますと、そういった方々よりも今の邑楽町の中では脆弱性、大変弱い部分があります。したがって、先ほど総務課長のほうから、受験資格について年齢制限というお話もありましたけれども、やはり民間、あるいは自らそういった経験を、キャリアを持っている方々は大変おられると思います。ですから、私は先ほどもちょっとお答えしましたが、この専門性のある資格を持っている方についての採用というのは、今後していく必要があるだろうと。ぜひそれを研究してほしいという話は、総務課長のほうにもお願いした経緯がありますが、特に技術的な仕事の中で、土木関係、建築関係等とほかにもあるわけです。そういうことで、例えば町で発注した事業について完成できました、そのことを現場監督をしている職員いるわけですから、そういった、もちろん今現在やっている職員も、きちんとその監督結果を報告をして、問題なく決裁しておりますけれども、やはり専門的な資格があるかないとでは、やはりそこに本当に専門的にその部分について、確認ができるかということ、まだ脆弱的なことが私はあるのだろうと、そういうことでありますので、年齢制限ということもありますが、やはり経験をした方について、専門的な資格を持っている方については、今議員がご指摘されたように、今後採用についてはしていく必要があるだろうと、こんなふうに思っております。

具体的な例として、学校の教職員の問題についても、年齢制限、一定の年齢まではありますけれども、かなり経験をされた方々のその受験資格ということも幅広くなっている状況もありますので、町としても今後より一層専門性の高まる事業が多くなってきますので、この部分については有資格、そして技術的に本当に専門的に持ち合わせてる人については、採用、受験資格の中に含めた中で進めていくように考えていきたいと思っております。

○松村 潤議長 黒田重利議員。

○4番 黒田重利議員 ありがとうございます。町長、しっかりその辺をやっていただいて、力強いまちづくりと、あと子どもたちに最適な環境ですか、保育士が一生懸命やっていただいているので、よかったかなと思いますけれども、今町長のほうからいい話を聞けたかなと思いますので、ぜひそれを実行していただいて、優秀な人材確保、専門員の確保のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上をもちまして、私の一般質問を終わりたいと思ひます。どうもありがとうございました。

○松村 潤議長 暫時休憩いたします。

〔午前10時58分 休憩〕

○松村 潤議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時15分 再開〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○松村 潤議長 12番、小沢泰治議員。

〔12番 小沢泰治議員登壇〕

○12番 小沢泰治議員 議席番号12番、小沢泰治です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今日は、2項目あるわけですが、難しい面もありますが、この前、12月の一般質問、議会のときに、町長にいろいろ尋ねたことがあったのですが、その件についてのことと人生において、生まれたときから死ぬまで、いろいろなことがあるわけですが、その辺についてお話しさせていただきたいと思ひます。

通告は、まず食生活の充実、十分な睡眠、それとポジティブな、能動的な毎日ということ、そういうことと、あと金子正一町長が就任後、長きにわたって務められているわけですが、各種指数が連続マイナスになっているということ、非常に私憂慮することだと思っております。

それで、その中に入る前に、まず町長のこれまでの、町長自身のですから、これは通告にありませんけれども、課長時代から、自分自身のことですから、課長時代から現在までの課長、あるいは議員、町長になった、そういうことについて、お話ししていただければと思ひます。課長のときにどういう課を経験して、それで議員になって、その後の、現在に至っているわけですが、いつ町長になられて、現在になっているか、その辺をお聞きしながら、質問に入っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私は、昭和37年5月1日に町役場に奉職をいたしまして、39年11か月ほどお世話に

なりました。この間、課長という限定の話ですので、経験した課は、当時住民課といたしますか、福祉関係が、その前、課長ですか、福祉関係の課長と、それから学校教育課長、それから産業振興、今の農業振興の課長、その3課だったと思いますが、この間、本当に課員の皆様のご指導をいただいて、滞りなくといたしますか、無事にその職責を果たすことができたということでもあります。

それから、その後の議員ということになりますが、平成15年3月31日まで、役場職員として奉職をしまして、その平成15年の年が統一の地方選挙ということで、議員ということでお世話になったのが5月22日からですか、平成15年5月22日からだったと思いますが、議員ということでお世話になりまして、その後、平成19年5月23日から11月まで2期目の議員としてお世話になりました。

それから、このような立場でお世話になりましたのは、平成19年12月19日から、町長としてお世話になって今日に至っております。

この間のということではありますが、大変長く地方行政といたしますか、お世話になったわけですが、その間いろいろなことということでは失礼かと思っておりますけれども、私自身、健康にも恵まれて、それぞれの課題について、一応といたしますか、この仕事はさせていただいたのではないかと感じておりますが、私の今の心情でもありますが、やはり誠実な気持ちで、そして真っすぐにまちづくりをするということが大きな自分の気持ちでありますので、それに背くことのないように真面目に真っすぐ仕事をさせていただいたと。これは取りも直さず、自分だけのことでなく、議員の皆さんはじめ、町民の皆さんにお世話になった、大変ありがたいご支援があったおかげでもありますので、そういうことで私の簡単な報告になってしまいましたが、今日までそのようなことで地方行政といたしますか、まちづくりにお世話になってきたということで、ご理解いただきたいと思っております。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 今、町長にお話聞きますと、長きにわたって邑楽町町民のため、邑楽町のために尽力されたということよく分かります。そんな中で、12月の一般質問のときに、最後なのですが、私町長にお話伺いました。町長の答えが、私小沢の質問の趣旨は町長も理解できる場所もあると。それで、今の町の現状から、全く行政運営が間違っていなかったと、私自身自負しているということなのです。そういう前提がありまして、それで今日の質問の中身に入らせていただきたいと思っております。

まず最初が、食生活の充実、十分な睡眠とポジティブな毎日、前向きな毎日を過ごしていれば、いろいろゼロ歳から、ゼロ歳以前ですけれども、それから最期まで本当に充実した毎日が過ごせるのではないかと思います。生涯を貫く仕事を持てとか、仕事をやり続けなさいとかということもありますけれども、そんな中であって、今お話をお聞きますと、平成19年12月に首長になられたということですが、それから19年ですから、15年ですか、16年、そういう長きにわたっているわけですから、その中で本当の意味で町民の将来も踏まえながら、しっかりとした財政基盤、個々人の家庭環境がありますけれども、そういうことで町民が充実した豊かな生活ができるという社会を

つくり上げたかという、私はそうではないというふうにある意味確信しているのです。元がなければいい生活も社会も生まれないし、例えば地元の企業ですから、お話ししますけれども、サントリーの新浪代表、それからローソンだとか、いろいろやった方がいらっしゃいますけれども、あの人は社長経験というのはなくてああいうことをやって、すばらしい実績で、現在も頑張っておられますけれども、そういうことで、外部から来た方でもトップになったら何をすべきかということで、いろいろ仕事はできるのではないかと思うのです。ですから、首長になったわけですから、首長の仕事というのがあると思うのです。そういうことを考えたときに、先ほどの運営が間違っていると全然思わなかったということなのですから、全体を取って見ればどうかなと私は非常に疑念を抱いているのです。

そこで、まず、生活は生まれる前から死ぬまで、本当に病気にはならず、家庭生活をちゃんと営める状態をつくるのが一番いいことだと思うのですが、現在福祉予算と申しますか、そういうことで、国民健康保険とか、介護保険とかあるわけですが、現実に邑楽町が全体として国民健康保険をどのくらい負担しているか、あるいは介護保険についてどうであるか、それを担当課長のほうからお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○松村 潤議長 山口住民保険課長。

〔山口哲也住民保険課長登壇〕

○山口哲也住民保険課長 お答えいたします。

国民健康保険及び後期高齢者医療保険の特別会計の歳出ということでよろしく申し上げます。平成20年度、この年から後期高齢者医療保険が開始されたわけですが、国民健康保険27億6,129万3,000円、後期高齢者医療保険1億7,576万1,000円、合計29億3,705万4,000円。平成25年度、国民健康保険32億8,388万6,000円、後期高齢者医療保険2億1,210万2,000円、合計34億9,598万8,000円。平成30年度、この年から国民健康保険の運営主体が県となっております。国民健康保険31億7,231万2,000円、後期高齢者医療保険2億9,503万9,000円、合計34億6,235万1,000円。令和3年度、国民健康保険29億2,078万5,000円、後期高齢者医療保険3億4,025万3,000円、合計32億6,103万8,000円。

以上でございます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 続いて、介護保険のほう。

○松村 潤議長 橋本福祉介護課長。

〔橋本恵子福祉介護課長登壇〕

○橋本恵子福祉介護課長 そうしましたらば、お答えいたします。

町の介護保険の負担ということになります。介護保険特別会計の歳出決算額の推移をご報告いたします。平成20年度、11億9,335万4,000円、平成25年度、16億8,998万5,000円、平成30年度、20億

1,343万円、令和3年度、20億5,975万8,000円。

以上です。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 山口課長、橋本課長には、今邑楽町の状況をお話いただきまして、本当にありがとうございます。お手数かけました。

そんな中で、国民健康保険にしましても、後期高齢者医療保険も含めて、あるいは介護保険にしましても、毎年のように増えていっているのが現実です。邑楽町が人口を考えると、毎年のように減っているのが現実です。そんな中で、どのようにしたらいいかということは、私は町民、私たちはもう80にもなるわけですから別としまして、今後についてはゼロ歳から終末期まで、健康でいられるということが一番かと思うのです。そうしますと、家庭生活においてもいろいろ円満にいくし、経済的にも豊かになれるしということで。ですから、結婚以前の個々の生活、例えば女性だったら絶対にたばこは吸わないとか、いろいろ生活習慣がありますけれども、その辺の注意等を払いながら、出産のときの、まず大事はゼロ歳からになります。特にゼロ歳からですけれども、出産のときの初乳が大事であるということだと思うのです。それについては本当に重要なので、初乳をちゃんと飲んだ子どもと飲まない子どもは、生涯にわたっての健康について、非常に今コロナがはやっていますけれども、免疫力についても、お母さんからいろいろいただけるわけで、それが大事、基本、極めて重要な役割を果たしていると思うのです。

そんな中であって、今お話しいただきましたように国民健康保険についても、介護保険についても、先ほどのお話のようです。非常に毎年毎年増えております。そういう中で、まず大事なのは、ゼロ歳から終末期までの生活習慣が非常に大事、関わっているかと思うのです。初乳のときからですけれども、特に。その辺について、生活習慣病予防のためにはどのようなことを積極的にやって、どうすれば町民みんながにこにこ元気にいられるかということについて、これは久保田課長ですか、ちょっと披露していただければと思います。よろしくお願いします。

○松村 潤議長 久保田健康づくり課長。

〔久保田 裕健康づくり課長登壇〕

○久保田 裕健康づくり課長 お答えいたします。

生活習慣病ということは、以前から大分、こちらの病気については問題になっているかな、これは全国的にですけれども。妊娠期から高齢者までということになっています。妊娠期においては、保健センターなんかにおきましては、妊娠届出時に面接をして、その中でいろいろな妊婦のお話を聞いたりとか、相談を受けたりしながら、また食事の関係とか含め、今後の出産までの状況も計画的にこういうのがあります、こういうときはこういうのがありますよというような、そういう中で相談を受けたり、または指導というか、アドバイスをしたりしているような経緯がございます。

生活習慣病については、食事というものが非常に大切になっています。子どもの食事についても、

まずは小さい子どもについては離乳食相談という形で、離乳食についての関係の事業をしていますし、また乳幼児健診においても、食の関係、特に4か月とか8か月についてはまだ離乳食段階でありますので、その中において健診のときに栄養相談とか、指導的なことを行っています。

特に生活習慣病で注目されるのが、壮年期というような形、30代から40代という形になっています。これにつきましては、国のほうも以前健康づくり推進でいろいろ、平成20年頃からそういう生活習慣病、メタボリックシンドロームという、その前のときには成人病と言っていたときがあるかと思いますが、その形、その部分がなかなか改善されないというところで、生活習慣病に重点を置きまして、特定健康診査というのが40歳以上の方に義務化されました。そちらが義務化されましたことによりまして、町としましては保険者が40歳以上の方を特定健康診査を受けるように義務化されたという形になりますので、町の場合ですと保険者というと国民健康保険の部分でございます。町につきましては、そちらの特定健診というのですが、こちらのほうにつきましては、健診を毎年行っております。主に健康診査という基本的なところ、身長、体重の計測とか、血液検査とか、そういうことを主にやっているわけです。それに併せまして、町としましては集合健診という形でがん検診も併せてやっています。これ24日間の実施をしています。がん検診を含めると、人数にすると4,500人ぐらいが受診されているかなと思います。この特定健診の中で、特に生活改善が必要な方、健診結果から生活改善が必要な人に対しては、特定保健指導というものを行っています。この特定保健指導は、対象者ごとに支援計画を作成しまして、個別目標へ実現可能な行動の継続を支援したり、目標への自助努力による行動変容が可能になるよう、運動教室とか、栄養教室を取り入れまして、3か月以上かけまして、食生活や運動習慣などの生活改善の支援をしているような状況でございます。また、そちらの特定保健指導に該当しない方でも、例えば血圧が高い方とか、そういう方につきましては、4日間をかけてやはり運動教室や栄養教室というのを実施して、健康づくりへ取り組めるよう支援しております。

このような支援も重要でありますけれども、やっぱり生活習慣病というところにつきましては、ふだんの規則正しい生活習慣が、予防効果を高めることになると思います。自ら健康づくりに取り組むことが肝心ではございますので、そのような自らの健康づくりのきっかけとなるような各種健康教室とか、栄養教室も町としては開催しております。こちらについては、家庭でもできる健康づくりというところで推進しているところと併せまして、健康マイレージとして、健康診査を受診を必須に、健康に関する講座や教室への参加により、ヘルスワンポイントというものを付与しまして、10ポイント達成すると、コハクペイ500円分と交換できるような事業も取り組んでおりまして、健康づくりへの後押しを図っているような状況でございます。

ちょっと長くなって申し訳ございませんが、以上でございます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 久保田課長、細々内容の説明いただきまして、事業のことについてもお話し

いただきまして、ありがとうございます。今、課長のお話のように、非常にいろいろのもろもろの人生においてのこういうことが必要だということで話いただきました。それにつきまして、町として広報で積極的に、細々とした広報でなくて、大きな文字を使いながらこの辺をちゃんと積極的にお話しただけであれば、国民健康保険の問題、後期高齢者医療保険あるいは介護保険の問題、あるいは家庭においても、豊かな生活ができるということだと思いますので、広報に、町民にいろいろの事業、あるいはこういうことなのだ、生活習慣大事だということを、機会あるごとにお話ししていただければと思います。邑楽町で誰が町民みんなと顔を合わせる機会が一番多いかということを見ますと、多分私が思うのには町長だと思うのです。各会合がある、何につけても、いつもお世話になります。そうですね、よろしくお願いします。町長は全てが肯定的なのです、相手に対しては。肯定的なのだけれども、今まで発展ができないというふうな町になってしまっているわけですから、例えば公民館活動を例に取れば、公民館活動はみんながそれに参加して、参加した方はそれを基にして豊かな生活が、あるいは生涯が送られるようになっているわけですが、ある意味健康面とか、そういうことについてはポジティブなのですから、前向きなのですから、全体を見たら邑楽町の予算も非常に取って、低廉な利用料で活動ができる、いいことがあるのですけれども、それだけでは町の発展はないし、町民も豊かに生活はできないと思うので、ぜひその辺のことを考えていただければと思うのです。今、久保田課長から話がありましたけれども、それをお聞きしまして、町長はどのように感じておりますか。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 何と云っても、生活をしていく上で一番大事なことは健康であるべき、私はそこに尽きるかなと思っています。健康であるがゆえにいろんな活動にも参加もし、またいろんな事業が展開できるわけでもありますので、そういったことも含めて、以前、この4月から、昨年4月から、機構改革も行って、まさに町民の皆さんが健康で生活できるような環境整備のために、健康づくり課ということで課も編成したわけでもありますので、課長のほうから具体的な説明がありましたけれども、そういったことを中心にして、そして何よりも町民の皆さんが積極的にそういった機会を利用していただいて、日々の生活が安定して送れるようなそういう環境づくりは、私は行政として一番大切なことではないかと思っておりますので、今後もそれぞれの関係する課ありますけれども、まずは健康ということを考えれば、そこにやはり行き着くのかなと。今後も力強くそういった事業を行っていきたく、このように思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 生活関連につきましては、今の町長のお話本当にそのとおりで思うのです。ぜひ広報活動において積極的に取り上げていただいて、私は不老長寿、年取らないで長生きできるということが一番だと思いますので、それには表題のように、食生活の充実と十分な睡眠、そして

前向き、ポジティブさ、70になっても、80になっても、95になっても、100歳になっても、それが必要だと思うのです。

ある中野小学校の先生をしていた、町にすごく関係が深いから名前も言いますけれども、教育長をした小林さんっていますよね。それで、その奥さんの話ですけれども、この間私伺ってきました。お話を聞いたところ、本当にかくしゃくとしているのです。小沢さん、どうだよとかということで、いろいろと話をするわけですが、うちはせがれもお世話になったし、おいっ子もお世話になっていたのですけれども、私に読み書きそろばんで、まず文章を読む、それも漫然と読んでいるのでは駄目で、頭に入れながら早く読む、それをやれ。それと書くのは毎日日誌、自分で書いて日誌つけているのだそうです。日誌もつけろ、読み書きそろばん、あとは計算問題、それを私は突然出されました、行ったら。でも、非常に時間内にやるのだよとかということで大変だったのですけれども、その読み書きそろばん、神経を使いながら、できればいろいろの仕事に取り組む、それが大事かと思うのです。そうすることによって、ピンピンコロリといいますか、俗に言うそれができると思うのです。小林さんも非常に年を取っているから、足腰大変になっているところもありますけれども、前向きだということ、そういうのが大事かと思うのです。

そういうことで、まず食生活をいつも注意していて、それと十分な睡眠は取って、なおかつ前向きに、公民館活動もいいです。だけれども、社会のために邑楽町のためになる、そういう活動。邑楽町全町民がそのような活動をしていただければというふうに私思っております。ぜひそのようなことを、町としても町民にアピールしていただければと思います。

それと、続いて、次の題目ですが、金子町長が就任後、各種の指数があるわけですけれども、公民館活動においては、群馬県一だ、いろいろ表彰も受けているとありますけれども、あれはその面に限ってだけはポジティブなのです。だけれども、町全体を考えたら、底辺が本当に広がっているかという広がっていないと思うのです。その辺があって、群馬県一すばらしいというの、それは理解していますけれども、そのほかのことについて、私はそれが大事だと思うのです。

邑楽町のいろいろの指数があるわけですけれども、これは12月に一般質問させていただきました。そのときに出していただいた数字を、町長が町長に就任して、主にその後で結構ですから、中間はあまり要らないので、担当課長のほうからお話ししていただければと思います。よろしくお願ひします。順番に言ってしまったほうがいいですか。まず、町の人口問題について、山口課長のほうからお願ひします。最初と最後だけでも大丈夫ですので、よろしくお願ひします。

○松村 潤議長 山口住民保険課長。

〔山口哲也住民保険課長登壇〕

○山口哲也住民保険課長 お答えいたします。

3月末時点での外国人住民を含む人口でお答えさせていただければと思います。最初と最後というお話でしたが、5年刻みで回答のほうさせていただければと思います。平成20年が2万8,088人、

平成25年が2万7,454人、平成30年が2万6,725人、令和4年は2万5,871人となっております。

外国人住民は平成20年が399人、令和4年が868人と2倍強となっておりますが、人口推移は全体として緩やかに減少している状況でございます。

以上です。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 ありがとうございます。それについては、人口、邑楽町が大きくなってきた、町1万4,000が2万7,8,000になったわけですから、少ないのから増えているピークがあって、下がっているというのは現実なのですが、山口課長ありがとうございます。

その中で、全体的にもう減る傾向、町長に言わせれば日本中がそうなのだからしょうがないのだよというのが町長の口癖。いつ行き合っても日本中がそうなのだから、小沢議員ということですよ。そういう中であって、人口については下がりっ放し。上がった年は毎年毎年を見ても一回もなし。それが人口問題です。

その次に、事業所の関係で、商工振興課長の小島さんのほうからお願いします。これも最初のほうと、動向が分かればいいので、あとパーセンテージもお話ししていただければいいのですけれども。人口問題についても、それが本当は欲しいのですけれども、なくも人口問題は、実数で分かりますから。課長、よろしくお願いします。

○松村 潤議長 小島商工振興課長。

〔小島 拓商工振興課長登壇〕

○小島 拓商工振興課長 お答えします。

邑楽町の事業所数につきましては、平成18年は1,059事業所、直近の令和3年は925事業所でございます。平成18年と直近、令和3年を比較しますと、134事業所の減、増減率マイナス12.65%でございます。

また、従業者数につきましては、平成18年は1万2,376人、直近の令和3年では1万1,488人、平成18年と比較しますと、879人の減、増減率マイナス7.1%でございます。

以上でございます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 皆さん、私も今話お聞きしました。小島課長ありがとうございます。非常に厳しいものだなというふうに感じております。従業者数も減っているということなのですね。それで、邑楽町の昔からのある意味基幹産業であります、工業化、各地で東毛地区においては工業化が進んだわけですけれども、その中であっても、基幹産業の農業について、農業振興課長の吉田課長、よろしくお願いします。推移について。

○松村 潤議長 吉田農業振興課長。

〔吉田享史農業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○吉田享史農業振興課長兼農業委員会事務局長　お答えいたします。

町の農業産出額推計でお答えいたしますが、1983年、昭和58年の62億2,000万円を境に減少傾向にございます。平成17年は27億8,000万円、平成27年は22億5,000万円と減少しておりましたが、直近の令和2年では25億7,000万円と、僅かながらですが、上昇に転じております。

以上でございます。

○松村　潤議長　小沢泰治議員。

○12番　小沢泰治議員　吉田課長ありがとうございました。そういう今のお話のようなわけですが、大ざっぱに言うと、ピークから約6割邑楽町の農産品の出荷額が減っているわけですね。そういう状況にならしめた。この東毛地区からは農林大臣、谷津義男代議士が出ていましたけれども、現実には農政を担当なさってくださった方がいて、また県議にしても、久保田富一郎さん、順一郎さん、2人ともが農業最重視だということのスタンスで取り組んでいると思います。

金子町長においても、そのようなことが端々にお聞きする、また公民館活動のことを前面に出してやっています。町民の皆さんとお会いして、お話を聞いて、こんにちは、お世話になります。今日はあれですねと言って、いろいろ話合い聞いてもそうですよね、どうぞよろしく願います。それで、お別れです。そうではないよ、こうだよという話は、多分一回もしたことないと思うのです、私が思うのには。そういう中であって、非常に大変な状況にあるわけですから、各項目について、町長のほうから、順番にお話しいただけますか。一度お願いして、それだけでずっと最後までお話ししていただければと。各項目について願います。どのような思いがあるか。結果としての思いについてもお伺いしたいと思います、各項目について。

○松村　潤議長　金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長　項目については、関係する課長のほうから詳細にわたって報告がありました。そのことが議員のご質問の中では、大変発展的に進んでいないのではないかということのご指摘だと思いますが、私はそんなふうには思っていないのです。と申しますのはやはり人口減少にしても、私が就任する前から、ピーク時を境にして年々減少してきているわけでもありますし、その減少が少子化の問題と高齢者の問題ということが逆転しているということもありますけれども、これは自然の人口形成ということではないかというふうに思っておりますから、必ずしも人口そのものは減少だとは言いつつも、町の置かれている状況の中でいけば、私が、金子が町政を担当してからというご指摘ですが、決してそういうことでなく、依然としてそういうことが継続的に行われてきているのではないかというふうに思っております。

ほかの産業面については、これはよく言われておりますけれども、後継者の問題ですとか、いろいろ多くの課題があったわけでもありますから、そういったことと、いわゆる従前の経済状況から大幅に変わってきているという状況もあるかと思えます。そういうことを捉えたときに、単純に数

が減っているから、それが減少につながっていくということには私はつながらないではないかというふうに思っております。税金のお話も昨日の提案の中で申し上げましたけれども、こういった点も税金は年々増えているということを考えたときに、必ずしも町の財政運営が、行政運営がマイナスの方向に向かっているというふうには私は思っておりません。結果として、今までと同様に、ましてや生涯教育の公民館のお話等もありましたら、私は以前より増して多くの皆さんがその場で活躍をして、生きがいを持った生活をしているというふうに思っておりますし、図書館も前の町長建設されたわけですが、これも開館以来ずっと群馬県一の利用率も維持しておりますし、他のマイナス面だけでなく、プラスの面も大いに私はあると思っておりますから、決して否定的な考え方でまちづくりを進めているつもりもありませんし、まさに第六次総合計画、皆さんと協議をした内容については、これを粛々と進めていけば、推定人口は2万5,000人ということになっておりますけれども、私はあと2年で2万5,000人までいかないというか、2万5,000を切るようなことはないというふうに、現時点では思っております。ですから、そういうことを考えると、私は決して否定的に小沢議員、大変否定的なまちづくりのご指摘ですが、決してそんなことなく、これから皆さんの力をいただいて、今以上により住みやすいまちづくりを進めていきたいと、このように思いますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 町長、サントリー見たってローソン見たって、新浪さんが首長、社長になって、ああいうふうによくなっていますよね。やっぱり前向きなのです。町長のもう考え方、それは私が以前もよく話しましたけれども、町長は町の組織で言えば、課長補佐でいいのです。首長なのだから、社長なのだから、町を引っ張っていかなくては。ただ公民館活動、人が集まって楽しくわいわい、それでいいのではなくて、邑楽町をいかに発展させるかです。大きくするか。それはなぜそれが言えるかといいますと、邑楽町はシンボルタワーと東京スカイツリー、ムサシですか、63.4キロ、そういうことで、非常に首都圏の中心に近い場所にあつて、最近の自然災害等のことについても、何らよそと比較したら引けを取らない安心安全な地域だと思うのです。

また、その地域というのが海拔25メートル、邑楽町が一番高いところと低いところはどのくらい違うか、私も定かではないですけれども、そういうことを考えたら、邑楽町ほど発展余力のある、首長の運営の仕方によって、あるいは役場の課長、係長、そういう人の扱い方、あるいは行政、財政もですけども、財政は少し増えたのだという話ですが、行政面においても、今この課長がお座りになっている椅子見ても、もう座るところがないのです。そんなに増やしているのです。行財政改革で、課は少なくして、ちゃんとした町民のためになる係はちゃんと設けて、課長がその多くを采配して、その多くを采配した中で、課長会議というのはあるでしょうから、課長、私は3分の2で十分だと思うのです。そのくらいにしなければ、邑楽町は活性化しないと思ひます。そういう中で、3分の1になった中で、皆さんが協力し合つて、能力がすごく高いわけですから、邑楽町の

元気のため、町民の幸せのために頑張っていただけだと思うのです。町長のおっしゃる国がそうなのだから、しょうがないのだよと言うのだったら、即刻私は町長やめてしまってもらいたい。なぜかという、邑楽町発展のために町長がいるわけですから。ただ、補助金をもらって、補助金というのは、大変だから、国が県がそういう制度を設けてくださっているのですけれども、そうでなくて自ら自活できるような町に仕立て上げる、こんないい場所にあるのですから。昨日もある話をしたら、いや邑楽町はへんぴなのだ、辺地なのだよ。昔は辺地手当でもありました。だけれども、首都圏ということを考えたら、東京には近いのです。ですから、それを活用しないというか、地の利を生かさない行政運営、社長としての仕事、それが間違っていると思うのです。ぜひその辺を留意して、もう一度実数について、パーセンテージ分かっていると思うのですが、町長自ら心にしみるような格好になると思うので、ちょっとお話ししていただけますか。人口、事業所、従業者、農産品、それについて。そうしたら、本当に町民の皆さんもなるほどなと思ってくれると思うのです。本当のことを発信しなければ駄目です、格好では。

千代田町の大きな、うちの町にも大きなホームセンター、そこでこの関係の方がうちの事務所に見えまして、とにかくみんなのためになればいいわけですから。でも、交換いただきまして、あそこの仕事も幾らかやるようになりました。そういう前向きさが大事だと思うのです。ぜひ皆さんが分かるような、本当の意味で邑楽町の位置関係、邑楽町の、例えば太田市の、群馬県の産業においても太田市が一番です。そういう場所にありながら、都心に近い邑楽町が何をしたらいいか。黙っていても金のかからない事業、利用者にとってかからないことはいいことですから、黙っていても発展します。大変なことをやり遂げるのが社長の仕事だと思います。また、その社長と寄り添いながら、前向きになるのが課長だと思います。そろそろ、そろそろ課長がいても、それだと効率も上がらないし、指示系統についても、馬車馬ではないですけれども、そこだけ分からないような状況になってしまうわけです。ぜひ総合的に判断して、町長、社長なのですから、よろしくお話ししたいと思うのですけれども、その辺につきまして、邑楽町のこの現状、まずはそれをお話しいただければと思います。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私は、邑楽町の現状は、他の市町村との比較も大事ですけれども、邑楽町としてのこれからのまちづくりということは、また違った意味で発展していくことは大事なことだというふうに思っております。ですから、ほかの町がこうだから邑楽町はという比較は、私はあまり好ましく思っていないのですけれども、しかし議員が言われるように、そういう指摘といいますか、見方もあるかもしれません。それは、参考として伺っておきますけれども、先ほど人口の問題ですが、これも今群馬県の中で14市町村の中で、邑楽町は転入されている方が超過しているのです。転出よりも転入者が多いと。

〔「当然ね」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 いや、当然ということではなくして、そういった現象が起きているということは、私は地味なという言い方は失礼かもしれませんが、まちづくりを積極的にやっているあかした、新たに入ってくる方は邑楽町いいところだからということのそういった評価、昨日も申し上げましたけれども、邑楽南中学校のあの界隈を、100ヘクタールのうち62%ほどの用地を利用した中で、住宅が建設できるような地域ができましたと。そこに既に29件ほどの29人の方々の住宅を建設するという申請も出ているようですというのは、昨日企画課長のほうからお話がありましたけれども、そういったよい面、いっぱい私はあると思うのです。ですから、さっき課長の仕事をということの話が出ましたけれども、それぞれの課長はそれぞれの立場において、一生懸命取り組んでいただいているわけです。認めていただきたいと思います。やはりそういうことの一つ一つの大事なご意見をご意見として伺う、そのことが大きな励みになると思うのです。ですから、肯定的な部分と否定的な面をこれはあると思います。それは真摯にお伺いする中で、改めていくということは改めていかなければなりませんけれども、やはりこのまちづくり、いろんな課題があるわけです。それ一つ一つ乗り越えて、町民の皆さんへのサービスといいますか、その提供をしている私たちでもありますので、そういったことを認めていただくのは、まさにご意見をいただいている議員の皆さん方のお力によるものですけれども、ということで私は考えていますので、いろんな意味での町民の皆さんの邑楽町の思いというのは、それは課題はあります、課題はありますけれども、私はある意味肯定的に理解していただいているのではないかというふうに思っています。福祉的なもの、昨日の子育ての問題いろいろありましたけれども、そういうことも他の市町村とこれ比較という言い方してしまいますけれども、決して邑楽町が後れを取っているということはないだろうというふうに思っています。なぜそういうお話をしますかという、転入をされた方々のご意見は、邑楽町は本当に子育てしやすいところで、ありがたい、いいところですよというご意見いっぱいあるのです。なので、そこに住んでいる方については、十分その辺のところがかのこの気持ちとして感じない部分あるかもしれませんが、やはり一番転入されてきた方々、若い方々のご意見、それから高齢者の皆さんもまさに地域で何とかしていきましょと、邑助けネットワークのお話もあります。本当に地域の方々が、これから邑楽町をどうしていく、それをただ私どものほうの行政が見ているだけでなくして、支援をした中でどこに課題があって、どこを進めていくべきかということは、日々各課長も努力をさせていただいておりますので、窓口に来たお客さんもお話いただくのです。本当に邑楽町は親切で、そしてありがたいですよ。その言葉を聞くだけで、私たちは励みになる、より一層やっていこうということをご理解をいただきたいと思います。ちょっと長くなって恐縮でしたが、そういう思いで、私はじめ各課長も日々研鑽をし、職員も頑張っておりますので、ぜひこれからも今より少しでもよいまちになるように頑張っていきたいと、このように思いますので、ぜひご理解をいただきたいとこのように思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 町長のおっしゃることも十分分かっております。公民館もいいこと、活動もいいこと、発信もいいこと。ですが、邑楽町が発展するためには何したらいいかなのです。この地域です。日本一、トータルで考えれば。都会のほうが便利でいいよ、住みやすいよって人もいるかもしれない。あるいは、職場においても例えば東洋大学が撤退してしまった、やっぱり問題があるのですよ。板倉町が一番の人口減少、2番が邑楽町、3番が館林市、そういう状況に、このいい場所にあって、なっていくことができないようなまちをつくっているのは何が悪いのですか。例えば先ほどの農業出荷額の算出額が出ましたけれども、約4割になってしまいましたよね。そうすると、町長は、住民から出ている人口ピラミッドなんて毎日見る気になれば見られるわけでしょ。そして、高齢者が農業をされていて、農業をちゃんとしっかりできる体制になっていますか。なっていないと思うのです。農業においてやはり集約化、例えば大型農業機械を使うだとかということ、そうでなければ、他国とは競争もできませんし、町民に対して廉価で本当に健康的な穀物、野菜などなど、それを提供することもできないのです。現実問題として、今のままこのほっぽっておいってきたのです、15年。坂村吉正、久保田県議にしてみれば、もう何十年、15年ずらないのです。そういう中で、農業の町、そういうことを前面に出しながら、発展させられないというのは施策が悪いのです。先立っている人が悪いのです。二人三脚で県議と一緒にやっているのかもしれないですけども、だけれども、それだけでは邑楽町の町民の幸せはない。ただ、遊びとゲームと、あるいはそういうことについては充足感はありますけれども、本当の意味の豊かにはなっていない。ただ、これがなぜ豊かになれるかといいますと、邑楽町にお住まいの方は農業者はほとんど少なくなってきているわけです。いらっしゃる方、高齢化している方は、年金生活と言ってはあれですけども、社会保障制度が充実してきたものですから、ほとんどの方がしっかりした年金がいただいているわけです。そういう中であって、高齢、両親が、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんが元気であるということは、毎年年金は入ってくるのです。ですから、非常にそれはいいことなので、それ自体考えれば、回り、巡り巡っていいことなのですけれども、町外から来た方が邑楽町でいろいろ消費しますか、ほとんどしていないと思うのです。その辺が私問題があると思うので、その辺の邑楽町の将来ということ、あるいは今ということを考えて、副町長のほうからその辺を含めての全体の指数もマイナス、それについて一言お話お願いします。

○松村 潤議長 通告にありませんので、答える必要ありません。

〔「入ってるでしょう」と呼ぶ者あり〕

○松村 潤議長 半田副町長。

〔半田康幸副町長登壇〕

○半田康幸副町長 先ほどの議員のお話の中で、課長3割を減らせば町が活性化するというお話がありました。それについては同意することはできません。現在、邑楽町は他の市町村と比べて、こ

れも以前議会でお話ししたことがございますが、人口1,000人当たりの職員数は、他の類似団体、邑楽町と同じような人口や産業構造を持っているところと比べて1割も少ない状況です。そういう中で、職員は必死に働いております。それを3割減らせば活性化するというのは、私としては同意することができません。そういう方向を取っていくということも現在考えておりません。

それから、産業構造、人口や農業、商工業の振興ということについては、議員がご指摘のような問題意識はもちろん町全体として持っているところです。それへの回答が現在行っている第六次総合計画後期計画、これがそれに対する回答、町全体として検討に検討を重ねた結果、方向として出しているものだというふうに考えております。それを誠実に一生懸命職員が取り組んでいくことで、解決を目指したいと思っております。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 副町長、私は職員がどうのこうのではないのです。組織体をつくるのに、首長が先に立って、どういうことで課長を人数を決めていくのだから分からないけれども、割り振りをどうしているの分からない。その課を少なくしてもいいのではないかということなのです。そうすることによって、いろいろな情報がみんなでも共有できる。まして今はコンピューター時代ですから、それとにらめっこすれば、いろいろ分かるようになっていっているので、その辺のことをなくすためにも、私はそれが大事かと。横のいろいろな知識が身について、平から係長になり補佐になり課長になるということで、すごく前向きな仕事ができる組織体が出来上がると思うので、職員を減らすということは一言も触れていません。その中を有機的に活用しながら大きくする、課長だけが何人も何人もいたって私は駄目だと思うのです。強いて言うならば、私は部長職がいても、本当の知識集団というか、そういう意味ではいい面もあるかと思えます。そうすることによって、3人の部長、3人で決めるとすれば、方向性はこうだと。でも、部長は幾つかの課を掌握しているわけですから、そういう中で活性化する仕組みができるのではないかと思うのです。

それで、もうこれから、今お話ししましたけれども、町長とすればあと8か月、9か月ぐらいか、任期はないのです。私は、この前その後も1期やれということで一般質問もしましたけれども、それは私の原稿には載せておいたのだけれども、広報のところでカットされてしまったものですから、申し訳ありませんけれども、まだまだ健康なのだから頑張ってもらいたいのですけれども。9か月の間にぜひその道筋だけつけていただきたいのです。道筋は、その前にトップセールス、最初に当選したとき、私はトップセールスして、邑楽町をすばらしいまちに仕上げるのだということをお願い文句にしました。その辺について、どのような状況をトップセールスをしてきたのだから、町にそれが貢献できたのか、お話ししていただければと思います。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、道筋については、これは昨日の施政方針でお示しをいたしました。今後これ

から議員の皆さんにそのことを基にして予算計上しましたので、お認めをいただければ、その施政方針に基づいて、そしてこれからの行政運営を行っていくというふうに考えております。

それから、トップセールスについては、いろいろ時代的な変遷があります。したがって、その時代にマッチングしたところのセールスというのは、私は大事なことだというふうに思っておりますので、平成19年のときのその仕事と現在のセールスと違いますか、責任者として行う仕事ということは、大幅に時代の変遷とともに変わってきておりますので、それは十分なものというふうには自分自身も思っておりませんが、やはりそのまちづくりを進めていく上で、何が一番必要なのかということは取捨選択をしている中で進めているつもりでもあります。

それから、先ほど中央公民館というお話が3回、4回と議員のほうから出されましたが、議員がそのことについて、特にお気持ちを持っているということは、これは過去のことなのでお話ししてもと思いますけれども、やはりこの中央公民館が建設されて開館が始まった、その1年は実に町内外の皆さんから11万人の方の利用があったという、これは事実です。その後、コロナの関係でということで、利用された方は限定的になってしまいましたが、実に多くの皆さんに利用していただいているわけです。町が町民憲章の中に教育と文化を高める町だということをやっているわけですが、これ1つ取っても、私は大いにまちづくりの中では、町民の皆さんが自ら参画をして活躍しているところでもあります。公民館の職員も本当に一生懸命に取り組んでおられて、それであれだけの利用ということに結びついているわけでもありますので、やはり今文化を高めるまちづくりが粛々と進められているのではないかとこのように思っております。

これは、議員が特に公民館のお話がありましたので、ちょっと申し上げたわけですが、他の業種についても、今まさに国挙げてマイナンバーカードの問題もありました。これが2月28日までというふうな限定があって、本当に職員は必死になって、その取組に従事してくれたわけです。そういう一つ一つがやはり継続されることによって、いみじくも申し上げましたが、よいまちづくりができて、町民の皆さんに少しでも喜んでいただいている町ということにつながっているのではないかとこのように思いますので、私のほうのこれからの仕事についてということでありましたが、ちょっと多くを語ってしまいましたけれども、ぜひ真面目に真っすぐに誠実にこれからも努めてまいります。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 先ほど11万人とお話出ました。高齢社会なのです、今。そうすると、そういう皆さんが活性化できるような、それをすることによって、先ほどお話ししました年金ももらい続けていられるし、非常にいいことなのです。だけれども、新たなことを起こさなかったら、元気になれないのです。15年なりそういう長きにわたって、先ほど話出なかったのですけれども、私の質問に答えていなくて。トップセールスをしたところは何十社ありますか。これだけ恵まれている環境の邑楽町なのですから、交通の便にしても、全てで恵まれているわけ。その中であって、今の質

問についてお話しをお願いします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど商工振興課長のほうから、産業振興について、全体的に業種も含めて減少だという話がありましたが、私は町行政のほうでも十分その辺、そういったことについては、関心がないわけではありません。大変失礼なお返しになってしまうかもしれませんが、議員は商工会の理事の立場でおられるのかなと思いますが、町のほうも商工業の関係については、商工会とタイアップをして、それで少しでも工業のいろいろ指導していただく方、商業の指導していく方々も町のほうから、多少でありますけれども、支出をする中でお願いしているという経緯があるわけです。このことを考えたときに、プレミアム付商品券ですとかいろいろなことをやるのにやはり商工会とタイアップしてやっているということなのですが、担当課長も大変苦慮している部分もあったようですが、そういったことも町と商工会で一つになって進めていくということが大事ではないかなと思います。具体的に、その件数が何件というようなお話もありましたが、ちょっとそれは把握しておりませんが、134件ほど以前に比較して少なくなっているというお話は、担当の課長のほうから申し上げたとおりかなと思いますけれども、それをいかにして今以上に増やしていくかということは、いろんな課題があつての結果だというふうに思いますので、その課題の内容を十分把握した中で、指導といいますか、していく必要があるかなと。最近では新たに転出をされた企業の後の家屋を利用して、先進的な事業も行うという会社も町のほうに入っていただくというような話も聞いておりますし、必ずしも減少の一途をたどっているということには私はならないだろうとこんなふうに思っていますので、また今申し上げましたが、議員のほうからのそういった商工関係のお力添えをいただくとより強固なものになっていくのかなと。大変これは失礼な回答になってしまったのかもしれませんが、ご指導をお願いしたいとこのように思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 商工会もこの間懇親会をやりました、理事が集まって。会長が替わって初めてですけども、すごく前向きに、世代交代といいますか、私なんか本当におじやんで、それこそ一番年上かな、ぐらいになっているのですけれども、なかなか事業と役員ということを見ると、両立が難しいというので、なかなかいないのですけれども、そんなことで話をしています。とにかく商工会と話した、どのコハクペイがどうのこうのと、そんなことは課長補佐でいいのです。それこそ事務的なことだから。だから、首長として、社長としてこういう決定してどうするのだ、こうするのだ。トップセールスはどちらにしましたか。何回も聞いていますけれども。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどお答えしたとおりでございます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 それでは、していないということでもいいのですね。10社でも15社でもそういうのを話しましたけれども、していないということでもよろしいですか。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 していないということではなくして、時代的な流れの中でそれぞれトップセールスの行う事業そのものが変わってきているということは申し上げたとおりです。結果として、その誘致が進んでいるか、していないかということもありますけれども、農畜産物の話をさせていただきますと、南地区にJAの農畜産物が誘致できました。これは、3年ほど前にJAと覚書を取り交わして、それである地に立地をしたい、そう願っていたというようなこともありましたので、全くそのトップセールスをしていないということではないので、やはりそういった部分については、議員がご指摘されるようなことで、どうもその力入れ方が弱いということであれば、私十分お聞きして、仕事もさせていただいているつもりでもありますので、折に触れていろいろご指導いただければありがたいと思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 ここにいらっしゃる方全員の方が多分でんえんマルシェ何回か行かれているかと思うのですけれども、それではJAが主に入っていますけれども、あの状態で本当に農業が活性化する、あとあるいは利益が上がる、あるいは出店者が本当にあそこに出店して、いっぱい売れてよかったよとかということに私はなっていないと思うのです。けちつけては悪いのですけれども。役場関係ないから。経営ですから、関係ないからいいのですけれども。そういうことで、そこでどうのこうので行った方が、日常生活をするのに商品の点数が足りないだとか、いろいろあります。あるいは高いだとか、その辺があるので、大変なことだと思いますけれども、町長としてどういうことをやったかということについてはゼロに近いですね。例えば太田市場行った、玉村町行った、そんなことは決まっていることなのです。サプライチェーンの話この前もしました。そういうことについて、ぜひ安心安全の邑楽町にという、そういうセールスしたことありますか。ちょっとすみません。町長やっている期間が長きにわたっているから、私がお話ししているのですよ。1期目ではないから。その辺を踏まえて、回答してください。何十年やっているのですか。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変お叱りを受けて、大変私も困惑しているところでもありますが、JAが設置した施設ということについて、それについて町にとって利益があるかないかという回答になると思いますが、私は大いに利益はあるだろうと思っております、町にとって。組合のほうは、中身については承知しておりませんので、何とも申し上げられませんが、と申しますのは、町にとって利益が

あるだろうというふうに思うのは、あの地が、地域の皆さんが生活をしていく上の拠点施設としてあそこが形成されたわけです。以前、地域の町民の方から、こちらのほうに何とか、昨日も質問がありましたけれども、商店何とかしてほしいというような要望が多かったのは事実です。したがって、まさに地の利を得た中での広域幹線道路ですから、国道354号ですから。その縁辺部について、そういった事業が展開されたということになれば、その地域の皆さんの方々のということを考えれば、大いに私は生活がしやすいというふうに理解してもよろしいのではないかとというふうに思っております。したがって、議員が言われますように、町が全体として活性化がすべきではないかということについては、私が長くお世話になっている中でも、以前から比較すればそういった環境整備というのはできてきているのではないかと、私は自分でそういった評価をして、これは、多くの皆さんの評価ということが大事なのですが、私がお世話になった中では、そういった気持ちの中で進めてきたということもありますので、以前より増して少しずつでありますけれども、町のこの環境というのは整ってきているのではないかと、このようにお答えをさせていただきます。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 タベだったかな、どこかのテレビの番組で、買物客が1日4,500人来る時があるのですよという話が出ていました。私、4,500人すごいなと思ったのです。確かにすごいです。私が、Aスーパーに行って、レジの女性方に聞いたら、そこがピークのときは4,500人来るのですって、1日。でも、1年間、いや1週間に1日か2日休んでいるのですけれども、そういう中であって、それだけ魅力があるから4,500人来るのです。そういうことを考えると、何でもそうだと思うのです。私もそうです。私が1,200社ぐらい仕事の中であるのですけれども、私のところは毎年毎年自由に決められるわけですから、日本中で私が6番か7番なのです、うちは。また来年も頼むよ、助かったよということであるのですけれども。今日は、私時間が遅くなってしまって行けないのですけれども、群馬支店長が偉くなって今度は取締役になるのだということで挨拶に今日来るわけだけでも、俺行けないからということで、話だけしておいて、こういう印刷物があるからこれ渡しておいて、今度は企画開発部長かな、部長ではなくて、取締役になるので、ではこれ持って行かせろというので、私置いてきました。そういうことを考えると、やっぱり前向きです。課長補佐の仕事ではないのです、首長は。ぜひその辺を念頭に置いて、残された9か月と今後世代交代がある、なければしょうがないと私は思っているのですけれども、そういう中にありながらも、あと4年健康であれば努めることもできますから、ぜひその辺頑張ってくださいと思うのです。それについてのではという気持ちがありましたら、一言最後をお願いします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員が言われますように、これからも課長、職員と一緒にあって、まちづくりに努めていきたいと、こんなふうに思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 ぜひ長期計画もありますけれども、長期計画はプラス的にははみ出しても十分何の差し支えもないです。例えば人口1万5,000人、そんなのでいるのではないのです。普通の商売だったら成り立ちます、毎年毎年同じで。駄目です。それをぜひ心を入れ替えて、あと1年間、あと4年間頑張ってもらえればと思うのですけれども、最後にいかがでしょうか。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども申し上げましたけれども、職員力を合わせて頑張っていきたいと、もちろんこれは皆さんのご協力をいただいたということの上で立ってですけれども、頑張りたいと、このように思います。

○松村 潤議長 小沢泰治議員。

○12番 小沢泰治議員 頑張っていくということはよく分かりました。その中であっても、邑楽町がムサシ、63.4キロ、そういう首都圏、東京から、そういう近いわけですから、その辺、前橋もまた向こう回っていけば、高崎線回っていけば、それなりにありますけれども、ダイレクトにこちらは通ることもできますし、ぜひ邑楽町の指数がプラスになるように、あと9か月頑張ってくださいますか。よろしくお願いします。

以上で私の質問を終わりにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○松村 潤議長 暫時休憩いたします。

〔午後 零時43分 休憩〕

○松村 潤議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時30分 再開〕

◇ 大野 貞 夫 議 員

○松村 潤議長 13番、大野貞夫議員。

〔13番 大野貞夫議員登壇〕

○13番 大野貞夫議員 議席番号13番、大野貞夫です。私が邑楽町議会に初めて議席を得ましてから、ちょうど今日まで約14年と6か月になりました。私は、今期をもって議員を終わりにします。したがって、今議会のこの一般質問が私にとって最後の質問になります。金子町長におかれましては、ぜひ誠意ある答弁をお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

私の今日の質問は、通告してあるとおり、学校給食費の完全無料化に向けて、邑楽町も決断に踏み切るべきではないかと思うところであります。給食費の無償化についての質問は、過去、2017年、平成29年6月の第2回の定例議会、そしてその後2019年、令和元年第3回の9月議会に続いて、今

回が3回目の質問になります。ご承知のように、今全国で給食費の無償化の波が非常に急速に広がっております。特に群馬県は、その中でも全国的に進んでおりまして、2014年6月に学校給食の無料化をめざす会、こういうものが設立をされまして、活動を続けてまいりました。私が先ほど申し上げましたように、2019年9月議会で質問したときは、既に県内においては全額無料の自治体がある既に11の自治体、そして何らかの補助対策、これを取っていた自治体は14自治体ありました。もちろんそのときは、私たちの邑楽町はその時点では何の対応も取っておりませんでした。邑楽町が現在の第2子2分の1、第3子以降は全額助成、これを始めたのは令和3年4月、ちょうど2年前になります。この点については、私は評価をしたいと思っております。今まで何もやらなかったわけですから、それがこういう形でできたということについては、大変よかったなというふうに思っております。

そこでお伺いをいたします。今日、現在のこの県内の学校給食費の無料化、また軽減策を実施している市町村の現況について、担当課長にお伺いをいたします。

○松村 潤議長 松崎学校教育課長。

〔松崎澄子学校教育課長登壇〕

○松崎澄子学校教育課長 お答えします。

学校給食費の無償化や軽減策につきましては、全国的に動きが活発化しておりますので、調査の時点や聞き取りの方法により、集計結果が変動してしまう状況となっております。私からは、県が集計しました令和4年9月1日時点の状況を申し上げます。県内35市町村のうち、学校給食費を全額免除としているのは14で全体の40%、一部を助成しているのは15で全体の43%、助成なしは6で全体の17%となっております。

以上でございます。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 ただいま担当課長より説明がございました。今のお話のとおり、県が集計したこの数字でいきますと、これが去年の9月1日時点ということですので、今はそれが非常に大きく変わっております。皆さんのお手元に、このタブレットの群馬県の地図が出ておると思いますが、これを見ていただきたいと思いますが、見てもお分かりのように、現在ではこの僅かの期間に全額無償化の自治体が非常に拡大をしております。また、邑楽町でも実施をしています一部無償化、この波も質的にも規模的にも格段の向上が見られます。

これから私が申し上げますのは、ここの地図上に書かれておりますよりももっと進んだ状況を報告したいと思います。令和5年3月8日、昨日現在です。全額免除、これが3市9町6村、18自治体になっています。それから、一部助成、これが8市6町2村、16自治体。助成なし、これが先ほどの報告でいいますと、6自治体と言っていたわけですが、僅か1市。どこかといいますと、高崎市、ここがまだ手つかずという状況となっております。この邑楽町の近辺でいきますと、お隣の太

田市、ちょっと広げます。太田市が4月から無料化になります。それから、みなかみ町、これが実施をしていなかったわけですが、ここがやはり第3子以降を実施をするという報告を受けております。ここは、そのほかに何かごみ袋が有料化らしいです、今。高いのです。その10枚1組というのですか、それが何か800円とかするとか、随分高いごみ袋だと思いますが、ここも何か300円値下げをするというようなことの報告を受けております。こういうその流れです。ここで、給食にこういうふうになってきたことについて、町長の感想をひとつお伺いしたいと思います、お願いします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 35市町村のうち何らかの補助ということで34の市町村が実施の見込み、あるいは実施しているということを考えますと、今の経済状況等を考えたときに、やはり保護者負担の軽減ということが考えられるのかなと。また、併せて、給食費に対する各自治体の軽減に対する理解ということが進んできているのかなと、そんなふうに感じております。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 こういう状況の中で、大変進んでいるという認識を今町長も伺いました。

次にお伺いいたしますが、現在の邑楽町の町内の小中学校の児童給食費、これの負担額について、お伺いいたします。児童1人の金額に対して人数と総額、これをお伺いしたいと思います。

○松村 潤議長 松崎学校教育課長。

〔松崎澄子学校教育課長登壇〕

○松崎澄子学校教育課長 お答えします。

令和4年度の給食費、歳入見込額ですが、多子軽減、先ほど出てきました第2子半額、第3子無償、その軽減をした後の見込額を申します。4つの小学校の合計です。1月末の児童数は1,131名です。給食費は、年間11回でいただいております。小学校の一月当たりの給食費は4,100円です。児童1,131名分の軽減後の額は約3,800万円です。

同じく2つの中学校の合計額を申し上げます。1月末の生徒数が650名、一月当たりの給食費が5,000円、歳入の見込額が約3,300万円。小中学校合わせますと、令和4年度の給食費の歳入見込額合計が約7,100万円となります。

以上でございます。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 ありがとうございます。今、報告がありましたように、4つの小学校で児童数1,131人、私先ほど来の同僚議員の質問、やり取りの中でも出ていましたように、非常に邑楽町も漏れなく少子化、こういうことになっているわけです。一応私も今まで、先ほど申し上げましたように、質問をしていく中で、当時の所管の課長にいわゆる人数を出していただいております。これを見ますと、平成29年5月の時点でいきますと、4つの小学校の合計1,327人だったのです。そ

れが令和元年9月に入りますと、4つの小学校の合計が1,249人、ちょっと減ってきています。今年の令和5年1月末、今報告がありましたように1,131人。そうしますと、この間96人、100人弱、小学校の子どもたちの数が減ってきているということが言えると思います。

それから、中学校についてもですが、平成29年5月時点では、邑楽中学校、邑楽南中学校合わせますと738人、令和元年9月になりますと696人、今年の1月650人、マイナス46人、中学生もこのように減少してきているということでもあります。

今、担当課長のほうからお話がありました。7,100万円、これが各家庭で負担をしているということになるわけです。これは、過去2回の中でも担当する教育長、それから町長に、この学校給食についての考え方、お聞きをしてみました。同じような立場でお聞きすることになると思うのですが、給食は従来申し上げてきましたように、学校教育法、憲法の第26条ですか、第2項、第3項にわたっての学校教育法で、いわゆる食育の一環として位置づけ、義務教育はこれを無償とすると、こういうのが憲法の第26条第2項でうたっています。

まず、教育長にお伺いいたします。前回もお聞きしたわけですが、前回のときよりもこういう大きく状況が変化している、こういう中で改めて教育長のお考えをお伺いをいたしたいと思います。

○松村 潤議長 藤江教育長。

〔藤江利久教育長登壇〕

○藤江利久教育長 お答えします。

学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達のため、また食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で、重要な役割を果たすものであります。学校給食法は、食に関する指導の実施に必要な事項を定め、学校給食の普及と充実、学校における食育の推進を図ることを目的に制定されたものであり、その中では、学校給食を実施するのは、学校設置者の任務であると述べられております。児童生徒を心身ともに豊かに育成するために、安全で安心な学校給食を提供することは、町の任務であると認識しております。本町の学校給食では、安全で安心して食べられるおいしい給食を提供することを目標に、地産地消を推進し、地域とのつながりや食に関する指導の充実を図っております。

これまで、法の解釈に基づき、本町では学校給食費について、食材料費のみ保護者の皆様に負担をいただくことで推移してまいりました。学校給食費の多子軽減を導入して、2年が経過しています。2年間の実施状況や県内市町村の動向も踏まえまして、現在実施しております多子軽減策について検証する必要があると考えます。大野議員示された群馬県の地図を見ますと、本当にそういう流れがあるのだなというふうに深く感じておるところであります。これについても、検証していく必要があるというふうに考えております。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 ありがとうございます。

それでは、続いて町長の見解をお伺いいたします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 学校給食法で定められているということになりますと、分かりやすく申し上げますと、いわゆる給食の食材といいますか、そういう現物については、保護者の方にお願ひするということで現在進めているところでもありまして、それ以外のものについては、運営者の町のほうでその費用負担をします。分かりやすく申し上げますと、人件費の問題ですとか、施設整備に係る費用負担ということになるかと思いますが、そのような状況で考えておりますけれども、先ほど議員のご質問の中で、35市町村のうち一部、全額と含めて34の市町村が実施をしている、その34の中に邑楽町も含まれているわけでもありますが、しかし近年の状況等考えますと、やはりこの給食費については、保護者負担について何らかの形で軽減をしていく必要があるのかなと、今考えているところでもありまして、これから議員のほうのご質問の中で、学校給食費の完全無料化ということのお尋ねでありますけれども、これについては十分これから検討していく必要があるかなと思っておりますが、その一部負担ということについては現在実施しておりますけれども、より踏み込んだ実施を検討していかなければならないのかなというふうに思っておりますので、現在実施している以上に何らかの形で無料化に進めていくように考えたいと、このように思っております。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 今、教育長、それから町長のお考えを伺ったわけですが、前回の答弁よりも教育長も町長も大分前向きな答弁としてお聞きしました。前回、これは町長の発言の中なのですが、やはり学校給食そのものを考えてみた場合に、先ほど私はその無償化というのが、国の一つの大きな下にあるわけですが、その下に学校給食法というのがあるわけです。その中の第16条ですか、ここに規定するその一部保護者の負担とするということが確かにあります。この件については、従来から国会等において、この問題は時の政府等に対して、野党の議員の皆さんがいろいろ質問をしている経過がありまして、その中で今の文部科学省ですか、ここが学校給食費の無償化することが理想であると、理想という言葉を使っているのです。参議院の文教科学委員会というのですか、ここでそういう発言が記録をされている。それから、文部科学省の事務次官通達という形で、自治体に通知がされているということなのですが、学校給食法で保護者負担とされている食材費について、自治体等が全額補助することも否定されないということが言われております。このところ私がかつて経験したことのないコロナ、この下で臨時交付金というのが国のほうから出ているわけですが、これの給食費への補填をするということも、国がそれは結構だというようなことを認めている、こういうことも現実にはなっているわけです。ですから、一つ一つ、そこの壁が取り払われて、まさに憲法第26条でうたわれている無償化、これはもう職域ということで、義務教育の一環なのだということが徐々に、完全ではないですが、そういうことが政府の中でも認識されつつあったのかなというふうに私は思います。しかし、現実にはまだ邑楽町においても、先ほど担当課

長が言われましたように、7,100万円というお金は保護者が負担をしている。

今、私たちの環境、周りを見ますと、非常に物価が高騰している。安倍内閣以来、菅内閣、岸田内閣、続いてきている、この20数年来の中で賃金が全く上がっていない、日本の状況は。OECDの国の中でもほとんど最下位に近いと。お隣の韓国からも下だという状況が今あるわけです。そういう状況の中で、では、この群馬県が実施をした少子化対策に関する県民意識調査というのを、これやっているのです、県が。これによりますと、子育ての悩み、トップは「出費がかさむこと」が44.8%、理想の子ども数よりも予定の子ども数が少ない理由、これについても、「子育てや教育にお金がかかり過ぎるから」、これが66.5%、断トツなのです。出産、子育ての整備、推進のために最も力を入れるべきものでは、「経済的支援の充実」が63%、もうこういう意識調査の結果が出ております。それだけにこの給食費の無料化は、この県民意識調査から見てもびつりの施策であるのではないかというふうに私は思っております。

現実には、今社会が非常に格差社会と言われている中で、やっぱり一部には子育て世代の貧困化、こういうことが事実あるわけです。お母さん方の中でも今までずっと家にいたという方もほとんど外に出て働く、こういう家庭環境の変化、家で食事を作る機会が減っていますと、夕食はコンビニ弁当、朝食は菓子パン、こういう子どももいるということが現実にあるわけです。それだけに、先ほど教育長が言われましたように、学校給食の持つその食育、これがいよいよ重要となってきたら、こういうのが今ある現実だというふうに思います。

それだけに今日の私の質問は、完全無料化ということですから、先ほど町長がいみじくも言ったように、すぐにというわけにはいかないかもしれないけれども、そういう方向にあるということをお話を伺いました。しかし、考えてみると、今群馬県内でこれだけの自治体が既に無料化に踏み切っている、こういうことを考えてみた場合に、私は邑楽町は、給食費、私今ここで申し上げたように、給食費ということではあるのですが、実際にお金がかかるという話になりますと、今隠れ教育費というの私新聞で見たのです。要するに子どもが入学をするときに、特に中学生の場合、非常にお金がかかります。いわゆる義務教育ですから、教科書等についてはこれはもちろん無料ですけれども、そのほかにかかるもの、それをある評論家の方は隠れ教育費ということではあると思いますが、邑楽町においても相当な金額が私がかかっているのではないかと思います。例えば上履きだとか、体育館のシューズ、通学のシューズ、それから体操着の半袖、ハーフパンツ、ジャージ上下、通学かばん、こういうもろもろのものが相当お金がかかってきている。こういうことも、ただ単に給食費だけの問題ではなくて、お金がかかっているということは、現実に邑楽町でもあると思うのです。

こういうことを考えてみますと、やはり常に町長、言っていますよね、福祉のまちと。私もこの言葉は非常に大事な言葉で、邑楽町はまさにいろいろこれから、これから先の邑楽町の発展、展望を考えてみるときに、確かに企業を呼ぶことも、これはあながち私は否定しないですけれども、今

これからはまさに邑楽町は、第六次総合計画の中でも言っていますように、福祉に力を入れることがひいてはそこに若い人たちが邑楽町に住めば、非常にその点で恩恵を受けられる、こういう状況をつくっていくことが私は一番なことなのではないかなと、これは私の個人的な意見です。そういうところに、もうやっぱりやっていく、それからもちろん、先ほど同僚議員からも話がありましたように、工業、商業、それから農業、こういうところにもやはり大きく目配せをしながらやっていくのは、これはもう大事なことだと思います。ただ、現実に今日の前に来ているこのことは、給食費は7,100万円ですから、金額は確かに小さいと言いません。今の経済状況、邑楽町の財政状況から見て、私は出せるのではないかなというふうに思っているのです。というのは、完全無料化ですよね。私の考えは、私は執行者ではないですから、簡単に言える立場にあるのですが、一番のそれを担当している町長、その辺の決意といいますか、考え方をもう一度伺わせていただければありがたいと思います。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 福祉のまちづくりということのお話が、ご意見がありました、私もそのようなまちづくりを進めていきたいという思いは議員と同じでございます。特に今回のご質問は、学校給食費の完全無料化についてということのお尋ねであります、これについては先ほどお答えをいたしましたけれども、現在邑楽町はご意見の中にもありましたが、第2子の方については半額、第3子以降の方については無料ということで実施させていただいておりますが、具体的なお話を申し上げますけれども、この多子軽減の第2子について50%、半額ということのご負担、それから第1子については全額負担をしていただいておりますが、これを全て、ご質問のように完全無料化ということについては、十分に町の財政状況も考えた上で考えなくてはなりませんけれども、第2子の半額ということについては、金額で約1,100万円ほど財政が必要となってきます。これについては、財政のほうとも十分話し合いをしたところではありますが、第2子の残った2分の1の保護者負担については、これを多子軽減として、全額第2子は無料というふうな形で考えていきたいと、このように思っております。議員のご質問の中で十分なお答えができなくて大変恐縮でありますけれども、今行っている第2子半額、第3子以降の無料を今後第2子以降の方々については無料とするということで進めていくようにしたいと、このように思います。ただ、現時点ではご質問をいただいたという考え方もありますから、これを実施するには、具体的にそれに伴う決まりですか、要綱ですとかそういうことも考え合わせなければなりませんので、若干の時間が必要でありますので、これはご理解いただきたいと思いますが、具体的には2学期からということになるのかなと思いますけれども、そのような形で第2子以降の多子軽減については、今後十分詰めて実施する方向で考えていきたいと、完全無料化ということには程遠い部分もあるように受け止められるかもしれませんが、町の財政状況といろいろご理解いただいて、そのような形で進めさせていただきたいと、こ

のようにお答えをいたします。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 2学期頃からですか、今言ったの。第2子以降を無料化すると、そういう答弁をいただいたわけですが、町長の今年の初日に行われた施政方針、これ私改めて読み直してみました。ここに、給食費の質問するということで、特に私がちょっと抜き書きをしておいたのですが、町長はこういうふうにおっしゃっています。「第六次総合計画後期基本計画において、最重点施策の1つ目であります子どもを産み育てやすい環境の整備であります。子育てするなら邑楽町と実感できるような子育て政策として」云々ということが書かれており、これは大変重要な言葉だと思います。まさに邑楽町がそういう町を目指している、まさにそれが象徴される福祉ということにもつながると思うのです。

そういう点では、私の質問の趣旨とするところの無料化ということからすると、まだまだちょっと物足りないところもあるわけですが、担当課長にこの問題についていろいろちょっとお話をしている中で思ったのですが、例えば今の現状でいきますと、今度第2子からという話が出ましたからあれですけども、今まで非常にちょっと事務的に混乱をするというか、例えば子ども3人いますよね。そうすると、第2子から半額ということになっていますけれども、この第2子の方が中学卒業して高校に行きます。そうすると、これはなくなるわけです。この辺が結構いろいろややこしいのですよということ言われておりました。ですから、一番すっきりするのは、全部無料にするというのが一番分かりやすいし、適した内容になるわけですけども、その辺がなかなか長として踏ん切れない一つのあれがあると思うのですが。私は、ちょっと考えたのですが、この7,100万円、この金額、これから審議をするわけですから、恐らく町のほうで出してくれていることが通ると思うのですが、今年度の予算総額が94億5,000万円、かつての中で一番の予算措置になるわけですが、金額的には。私、考えてみたのです。この給食費を全額無料化する場合、7,100万円。これは94億5,000万円の僅か0.75%なのです。よく言われるのは、給食費は、予算の1%って言われたのです。全国的な統計的に見ると。だけれども、0.75%もっと低いわけですよ、邑楽町の場合。これ私の計算間違っただけですけども、多分間違っていないと思います。そうすると、何とかできそうではないかなと私は思っているのです。

強いて言うならば、直接これ給食費の問題とは、ちょっと切り離してになりますけれども、私が常々言っている非常に町民意識の中でも重税感がある国民健康保険料、これが非常に高いわけですが、これは。これ誰に聞いても高いと。これは、その背景があるわけですが、何でそうなるかと。これは、ただ単に邑楽町だけの問題ではなくて、強いて言うならば国の問題だと思います。毎年毎年、年齢が高齢化していく。そうすると、必然的にいわゆる自然増という形でお金がかかります。お年寄りになっていけば、私なんかもそうですけれども、歯が痛くなる、足が痛くなる、腰が痛くなる、どうしてもやっぱり医者に行く機会が多くなります。当然医療費がかかるわけです。その分は、いわ

ゆる自然増というのですが、それが約1,500億円から2,000億円、国のほうがどんどんカットしているのです、毎年。本来はそこにもう目を向けなくてはいけないわけが、そこはカットしてきているわけですが、ここずっと。だから、そういう点からすると、今言った呂楽町の国民健康保険税、令和3年度国民健康保険税の滞納金額2億1,634万5,378円、滞納が僅かこの呂楽町のこの人口の中でこれだけあるわけです。だから、せめてそれを少しでも引き下げるといふか、楽にさせていただきたいと思うためには、それがいわゆる均等割というのが、前にもここで言いました、均等割。おぎゃあと生まれると必然的に3万3,000円のお金がかかってくる。これ均等割っていいですけども、これがかかってきます。2人いれば6万6,000円、3人いれば10万円近くなる。だから、それを幾らかでも引き下げると同時にやっぱりそこに今先ほど言っている少子化対策にもつながる、18歳までの呂楽町でいきますと、18歳未満均等割、これが402人です。1人3万3,000円掛けると905万8,500円。これが加算した場合ですから、いいのですよね。これ税務課長にお伺いして、資料もらった中から今言っているのですが、この905万8,500円と、先ほどの給食費7,100万円、これを足しますと8,000万円になるのです。8,005万8,500円。これを見ても、94億5,000万円の予算に対しては、0.84%なのです。そうすると、これはいろいろ事情もあるでしょうが、思い切ってこれを無償化していくと。町の自治体で予算を組む、これをやれば大きなインパクトになると思います。少子化対策に対しての大きな、これは相当大きく影響が出てくるのではないかと。これは、私の勝手な試算であり、町長は財布を預かる立場ですから、そう簡単にはいかないというふうになると思いますが、私はできない数字ではないかなという気持ちで、今お話をさせていただいています。時間もまだちょっとありますのであれですけども、今の私の考えなのですが、町長の感想でも何でも結構です。一言お願いをいたします。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 費用負担については、継続的な要素が大変あるわけでもあります。議員のご質問の中に、少子化ということで将来的な児童生徒の数も少なくなっていくのではないかとということも含めて、全額の無料化ということのお尋ねは、十分私も理解はできるわけでもありますけれども、やはり継続的な支出も含めてもありますが、保護者負担の大変な状況の中で、保護者負担ということをお願いしているわけでもあります。これらは当初のご質問にはありましたけれども、経済的な面、あるいは社会的な現象の中で、無料化を進めてきている自治体が大変増えているということは背景はそういうものがあるのかなと思っておりますけれども、議員のご意見として承り、今後そういった全額無料ができるような環境整備ができれば、その時点でまた考えていきたいと、こんなふうに思っております。当面、先ほどお答えをいたしました。第2子以降の給食費の無料化ということについて、細かく点を詰めた中で実施する方向で考えていきたいと思っておりますので、ご理解をいただければと、このように思います。

○松村 潤議長 大野貞夫議員。

○13番 大野貞夫議員 ありがとうございます。時間がまだ6分あります。今日の一般質問的には大体これで私の質問は終わるのですけれども、一番冒頭に申し上げましたように、私は今期をもって次の方にバトンタッチをする。これは、質問とは関係ありませんけれども、やはり私も14年と6か月ですか、こういうところに出させていただいて、今日まで私なりに一生懸命やってきたつもりであります。この後よく聞かれるのです。大野議員、議員辞めるとぼけてしまうのではないかとか、よく言われます。私は、やることいっぱいあるのです、やりたいことが。そういうふうにならないようにしたいと思いますが、ここに生を受け、住んでいる以上は今後議員バッジはなくなりますけれども、一町民としてやはり私たちのこれからの孫、孫子の代に邑楽町というところはすごくいいところで、本当住んでよかったなと思えるようなまちづくりのために微力ながらもできることは頑張ってやっていきたいなという気持ちで今おります。執行部の皆さんをはじめ、課長職の皆さん、役場職員の皆さんには大変お世話になりました。また、まだ5月20日まで任期がありますので、それまでは、また議員としての職責にあるわけですけれども、いろいろの間大変お世話になりました。心から御礼を申し上げたいと思います。

これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○松村 潤議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大野議員におかれましては、14年6か月の長きにわたりまして、本当に多方面からのご指導とご指摘をいただき、本当にありがとうございました。議員のご意見等、まちづくりに大いに役立たせていただいたわけでもありますが、これからも立場を変えた中でも、ぜひまちづくりにいろんな面からご指導をいただきますようお願いを申し上げたいと思います。大変お世話になりました、ありがとうございました。

○松村 潤議長 これをもちまして一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○松村 潤議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。明日10日から15日までの6日間は議案調査及び各常任委員会の審査等のため、本会議を休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○松村 潤議長 異議なしと認めます。

よって、明日10日から15日までの6日間は本会議を休会とすることに決定しました。

来る16日は午前10時から会議を開き、令和5年度各会計予算について審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

[午後 2時27分 散会]